＜常任理事により平成29年度環境調査報告に取り組んだ感想＞（12月21日～22日）

１）茨城県立鉾田農業高等学校　廣山瑞季

今回、12月21・22日と環境調査報告書の作成を行いました。２日間を通してスムーズに作業を進めることができ、協力しながら活動できました。指導くださいました先生方ありがとうございました。

　　　今年度は、各都道府県から集まったデータを各ブッロクごとにまとめるところから始まり大変な作業もありました。特に、データの集計を担当してくれた５人は提出の仕方にばらつきがあったり、咲いているはずの無い場所の報告があったりと苦労したと思います。私は、集計したデータをもとに各ブロックの考察を４人で協力しながら考えました。昨年度の結果と比べたり、インターネットを使って気候や土壌について調べたりしながら行ったことでブロックごとの特徴を知ることができました。大変な作業でもありましたが楽しく考察を書くことができました。また、４人で行ったことでそれぞれの考えを入れて書くことができたので１人で行うよりいろいろな考察が書けたと思います。今年度は担当を決めたためそれぞれ得意な作業で進めることができたのですばやく作業できました。

　　　私が平成29年度環境調査の結果を見て感じたことは、どのブロックもセイヨウタンポポが最も多くシロバナタンポポやアカミタンポポは少なく、人のあまり立ち入らない場所にしかシロバナタンポポやアカミタンポポは生息しにくいという結果から、もっと環境を大切にシロバナタンポポやアカミタンポポを増えたら良いなと思いました。また、提出率について昨年度出していなっかった県連盟が今年度も出していなかったところもありもっと積極的に環境調査に取り組んで頂きたいと思いました。

　　最後に、今年度の環境調査にご協力頂いた連盟の皆様ありがとうございました。より多くのデータがあるともっと正確な情報を伝えることができるので来年度もよろしくお願いします。そして、全国地図の完成ができるようにご協力お願いします。

２）東京都立農芸高等学校　　石橋　あかね

１２月２１日、２２日の一泊二日の環境調査委員会お疲れさまでした。

パソコンや数多くのデータと向き合い夜遅くまでの作業でしたか、楽しくとても有意義な時間を過ごすことができました。

　昨年度よりも提出数が多く集計が大変だった反面、タンポポへの関心や環境の変化について関心が高まった２日間でした。

環境調査にご協力いただいた全国クラブ員の皆さんありがとうございました。

　日本には在来タンポポが約２０種分布しており、特定の地域にしか咲かないタンポポも多数あります。しかし今回の調査ではタンポポが約２割、外来タンポポが約８割と外来タンポポが大半を占めている結果となりました。在来種は緑が多く、地面が土で人の出入りが少ないところと生息環境がかなり限られています。一方、外来タンポポは生息環境が限られることなくどこでも生息できます。約２０年でビルが増え、コンクリートが増えと自然環境に大きな変化があったことが在来種減少に関係しているのではないかと思いました。

　最近では在来種と外来種の雑種も多く分布しているそうです。在来種はほんのごくわずかであるとも言われています。

　繁殖力が強い外来種、雑種によって繁殖力が弱い在来種が減少しているということに寂しさを感じます。

　今回、昨年以上に提出数が多くたくさんのデータを集計することはできましたが、前県連が提出しているわけではなくまだ調査ができていない県や地域があります。東京都も提出数が少なくまだまだだなと思っています。常任理事として、東京都連盟会長として残り少ない任期ではありますが、各学校の役員や先生方に協力していただき少しでも後輩に残していきたいと思います。

　またこの２日間で、考察など話し合いをする機会が多く自分自身たくさん学び成長することもできました。自分にない考えや捉え方などがあり、自分だけだはなく複数人で一つのことを考えることの利点を改めて実感しました。

　知らないことも多く自分の無知を痛感し、もっともっと学ぶべきことがあるなと感じました。残り少ない期間でできる限り多くのことを吸収していきたいです。

　ご指導してくださいました、中央指導委員の先生方　２日間ありがとうがざいました。

３）栃木県立真岡北陵高等学校　　上野結希

１２月２１・２２日と２日間お疲れ様でした。

今回は全国から集めたデータを集計することから始まり、パソコンを使いグラフにまとめました。まとめたものを見て、結果や考察を常任理事のメンバーで考えました。　　　　　　　　　まとめ方は、２年前と１年前のものを参考にし、２日間でまとめていきました。今年度まとめた環境調査ですが、調査の結果から様々なことが分かりました。まず、在来種タンポポは人の出入りが少なく、植物があるところに多くあることが分かり、限られた生息地でしか見つからないことが分かりました。それに比べ、外来種タンポポはコンクリートに囲まれている所や緑が多い住宅地など様々な環境で繁殖していることに気づき、昨年と同様に外来種のタンポポが増えていました。

また、次年度への課題も見えてきました。課題は２つあり、１つ目はブロックごとの提出数の差があることです。ブロックによって、大きな差があり全体としての提出率は７５％とあまり高くなかったことが残念です。次年度は全連盟提出を目指し、提出率１００％にしてほしいです。２つ目は調査の信憑性が低いことです。ブロックごとで調査方法が統一されていなかったことや、対象種についての理解ができていないのではないかということで、この課題が出ました。これらの課題を１つずつ改善することでより正確な調査をすることができると思います。

環境調査の集計を終えて、自分があまりにもタンポポについて知らなすぎることを実感しました。外来種タンポポが多いことは知っていましたが、ここまで多いとは知らず、在来種タンポポが少なくなっていることに驚きました。調査をし、分かることが多くなるにつれてタンポポについてもっと深く学びたいと思うようになりました。タンポポについて、理解が深まればもっと違った視点からみられたのではないかという反省がありました。次年度の人にこの反省を引き継いでもらいたいです。

まとめる作業では、考察をまとめるのが大変でしたがグラフから分かることを皆で出し合い、よく話合った結果、最終的にうまくまとめることが出来たと思います。初めは２日間で最後まで終わるか不安でしたが、皆で協力して無事に終わらすことができました。私自身、ここまでしっかりデータを出し、考察を考えたことがなかったのでとてもよい経験になりました。今後もより多くのデータを集め、より正確なタンポポ調査をしていってほしいと思います。

最後に、ご指導していただいた先生方、ありがとうございました。

４）埼玉県立羽生実業高等学校　　関　凪海

平成29年12月21，22日に行われた環境調査報告委員会お疲れ様でした。

　　　今回の環境調査報告委員会は、環境調査の全国から集まったデータの集計・考察を行いました。今年度も昨年同様に「タンポポ」の調査だったため、データの比較がしやすかったです。今年度のまとめ方は、昨年度・2年前を参考にして、まとめていきましたが、大変なこともありました。特に朝から夜遅くまでパソコン操作をし、集計データをまとめてくれた男子5人に感謝しています。

　　　集計結果を基に各ブロックで考察を考えていくと、自分とは少し違う意見が出てきて面白いと感じたし、見方によっては「そういう意見も出るんだ」と思いました。

　　　環境調査への参加やこのようなデータ集計を行っていなければ私は、「タンポポ」は種類などがなく「タンポポ」でしか見てなかったと思うので、環境調査の「タンポポ調査」に携わることが出来てよかったです。そして、タンポポという植物についてもっと詳しく知りたいと思いました。

　　　今回の環境調査委員会での報告書作成や8月に行われた環境調査評価委員会でのパネル作成で得た経験は私にとって、とても良い経験になりました。常任理事9人でパネル作成や報告書の作成が出来てよかったです。

　　　今回のデータ数は、昨年度よりも増えていたので、来年度ももっと増えて、正確なデータが取れればいいと思いました。

　　　全国のデータが出るように常任理事が声かけをして、本当の“完成“という形になれば良いと思いました。

　　　データを提出していただいたクラブ員の皆さん、ご指導していただいた先生方、ありがとうございました。

５）千葉県立茂原樟陽高等学校　　福岡磨祈

１２月２１・２２日と行われた環境調査研修会では、二日間にわたりパソコンに向き合う時間が長く大変な作業でしたが、とても楽しく有意義な時間になりました。

結果・考察を出す際には、昨年度と今年度のデータを見比べ考えました。そして気づいたことがいくつかあります。一つ目が、昨年度よりも今年度のデータ提出率が上がったということです。このことにより、環境調査を真面目に行ってくれる人が増えたことがわかります。しかし、全国的に見れば提出率の悪いブロックもあるので今後も呼びかけを行い来年度以降も、さらなる提出率アップを目指してほしいと思います。

二つ目は、在来種タンポポがやはり外来種タンポポよりも少なく、さらに在来種タンポポの生息地もだんだん少なくなってきてしまっているという現状です。在来種タンポポは、住宅地や人の多い場所などを避け、林など緑の多い場所に生息しています。生息地が少なくなっているということは、住宅地などの人の多い場所が増え、在来種タンポポにとって過ごしにくい環境になってきているということがわかります。

今回このような貴重な経験をし、データをまとめること、そこから結論を出すことの大変さを学びました。

千葉県は、調査数が多くありました。今後も千葉県全体で声を掛け合い他県に負けないように努力していきたいです。

６）群馬県立利根実業高等学校　　和田将哉

今回、ＦＦＪ環境調査に参加させていただき、全国のタンポポの生態や生育状況について、詳しく知ることが出来ました。日本には、在来タンポポである関東タンポポのほかに、外来タンポポであるセイヨウタンポポやアカミタンポポなどがあります。今回の集計結果から、外来タンポポが、在来タンポポよりも多く存在していることがわかりました。

「いきものログ」事務局の浜田　拓様の講話より、わが国の植物の生態系の現状について教えていただきました。「いきものログ」においても、外来種の報告が多く、大きな問題となっていることを知りました。浜田様の講話は、大変興味深く、環境や生態系の改善に取り組むうえで、重要なことばかりでした。

また、このような環境調査活動は、全国の農業クラブ員をつなげることが出来る素晴らしいものだと感じました。同時に各都道府県より、クラブ員によるデータが集まらないと、正確なデータとは呼べず、きちんとした分析にもつながらないことを分かりました。全国のクラブ員のみなさんが協力することにより、はじめて正確かつ緻密な環境調査となります。

　　　環境調査の集計作業を行う際、自分を含め、９名の常任理事と中央指導員の先生方とで一緒に行いました。改めて常任理事の仕事の大切さ、そして仲間の存在について知ることが出来ました。集計作業は、９名の常任理事のうち、誰かが１名でも欠けていたら、できなかったと思います。

環境調査では、データの集計の大切さや分析や考察の方法等など、多くの事を学びました。この体験を忘れずに、今後の自分自身の進路に役立てていきたいと思います。

ありがとうございました。

７）神奈川県立平塚農業高等学校　　端山虎太郎

　　全クラブ員の皆さま、平成29年FFJ環境調査へのご協力ありがとうございました。

平成29年8月23日（火）〜24日（木）と12月21日（木）〜22日（金）の2回に分けて行われた環境調査委員会の報告書作成に携わり、例年課題に出ていることだが、各ブロックごとに提出率に大きな差があることがとても気になった。ブロック内で出している県もあれば、出ていない県もある。また、ブロック全体で全く出ていない場所もある。

 　　他には、神奈川県連盟にも正確に伝達したい内容だが、タンポポを見つけた場所はハッキリと記録し、3次メッシュコードを記入してもらいたい。各ブロックから寄せられた調査票をまとめている中、2次メッシュコードであったり、メッシュコードが正しくなく、咲くはずのない場所やもともと3次メッシュコードが記入されていないものが数多くあった。このことは、取りまとめのときとても苦労した内容のため、まずは神奈川県連盟から周知していきたい。そして、これからも、各ブロックのクラブ員の皆さんに協力をお願いしていきたい。

８）山梨県立北杜高等学校　　伊藤喜哉

１２月２１日、２２日の２日間にわたって行った環境調査研修会で、全国のクラブ員が集めて 下さったタンポポの分布データを集計、考察を常任理事の９人で分担して行いました。

 １日目は、各県のデータをブロックごとにまとめグラフを作成、おおまかな考察を考えました。各県から上がってきたデータの数はブロックごとに差が激しく、環境調査に対する姿勢の違いが明らかとなりました。全体の提出率は７５％と、目標の１００％にはとどきませんでした。提出率が１００％のブロックがあるのに対し、提出率４５％というブロックがある現状をどう改善していくかが課題だと思われます。また、データの入力が正しく行われておらず、特に三次メッシュコードの入力が雑な県もありました。ですが、昨年に比べデータ数が増加し反省が活かされていると思いました。

　 ２日目は、ブロックごとにまとめたデータを１つにして全国の分布状況や、考察を考えました。全国的に見ても外来種のセイヨウタンポポが圧倒的に多く、在来種タンポポの報告数が少なかったです。外来種は生命力が強く、生息期間も在来種に比べ約３倍も長いことから、報告数がとても多かったという結果となりました。全体の数値チェックをすると、間違えが多く見つかり訂正するのにとても苦労しました。

　 この２日間を通して、農業クラブの規模の大きさに改めて気づかされました。多くのクラブ員で１つの取り組みを達成することは難しいく大変なこともありますが、大きな達成感を味わうことができました。

９）静岡県立田方農業高等学校　　佐藤寛太

 １２月２１、２２日の二日間にわたり、環境調査研修会をしました。

 私は、全国から提出されたデータをまとめたり、いきものログの報告書作りをしたりしました。たくさんの都道府県連盟が提出されていて、昨年度よりも３０００近く調査数がふえ、提出率が約７５パーセントという結果が出ました。しかし、目標は提出率１００パーセントを目指しているので来年度も引き続き調査をするので、提出率が１００パーセントになるよう、各都道府県連から提出されるよう調査をしてほしいと思います。

 二日間の作業を通し、全国のデータをまとめるとなると、たくさんのデーター数となるため、何度も悩んでしまうことが多くありました。データをまとめていくとタンポポの生息数はカントウタンポポも少なくはありませんが、セイヨウタンポポのほうが多く生息していることが分かりました。

　 まとめた結果から、二つのことを考えました。まず、カントウタンポポは春の３カ月間にしか咲かないので調査が遅く、８カ月間も生息期間があるセイヨウタンポポがたくさん調査されたのではないか？ということと、また、日本に在来種であるセイヨウタンポポの広がりが進んでいるのではないかということです。そのことから、調査期間も調査結果に反映されるのではないかと考えました。

 わたしは二日間を通し、来年度には目標率を１００パーセントに近づくような結果が出ること、そして調査期間をカントウタンポポも咲いている期間に調査できるよう、来年度も環境調査を頑張ってほしいです。